



同書(下記冊子)に掲載された、市内の女性2人から戦時中の体験談を伺いました。

戦争の記憶、永遠に...

増井はつこ(吉川町・85歳)



戦時中、吉川町の青少年たちは兵隊になり、働ける男は軍需工場に行ったりで、村は年寄りと女と子どもになりました。だから、よく田んぼの世話や養蚕の仕事をしました。

戦争も状態が悪くなると、兵隊が家の2階で15人くらい寝泊りをしていました。家が農家だったので、幸い食糧には困りませんでした。外では、グラマンが飛び交う音が鳴り響き、防空壕の中で生きた心地がせず、夜も眠れない日々が続いたことでした。

また、沖では米軍艦が控えており、海岸の松林を切り倒して、上陸しないようにバリケード。艦砲射撃を避けるために、野市町の白岩へ逃げたこともありました。

吉川の下道街道(旧県道)の砂丘の一番高い標高10メートルほどの所に、忠霊塔が建っています。その中に、私の小学校の同級生の名前も刻まれています。戦禍を被った人々の冥福を祈り、後世へ伝えていかなければなりません。

戦争の記憶は、年月が経つにつれ薄れていきます。また、若い世代ほど体験を話しても、意識として残りにくいのが現状です。今は、平和な世の中で本当に幸せですが、戦争があったことを心に刻み、決して風化させてはいけないのだと...

感謝、誇りを胸に

嶋田清子(香我美町・85歳)



昭和19年、20年の2年間、私は山北小学校で教師生活を送りました。戦争真っ只中のことでしたので、自分の思っていることがほとんどできず、勤労奉仕によって国のために尽くしました。「軍国主義教育は、子どもたちへどんな影響を与えるのだろうか。順調に成長してくれるだろうか」といった不安がよぎり、やり切れない気持ちでいっぱいでした。食糧は、当然ながらほとんどなく、学校の畑でサツマイモを植えて飢えをしのいだことでした。B29が学校の上空を通過した時は、とにかく生徒を避難させましたが、あの轟音を聞くとき生きた心地がしませんでした。

昭和21年3月、私は教育現場で仕事をすることに負い目を感じ、教師生活に終止符を打ちました。忠君愛国の精神を生徒に植え付けてきた自分は、間違ったことをしていたとやりきれない気持ちで、しばらく自分自身をせめたことでした。

毎年8月が来ると、戦時中のことを思い出します。不自由な時代を生き抜いてきました。人々には助け合いの心があり、何事にも辛抱強かったと思います。今の世の中は、物が溢れ豊かになり過ぎていますが、日々当たり前のように生活ができることへの「感謝」の気持ちと、日本人としての「誇り」を持ってほしいものです。

香美の女たちが語る こんなこともあったぞね

香美郡女性生活史
作成の会/編著



旧香美郡の女性生活史をつくるため、13人の女性たちが集まり、香美郡女性生活史作成の会を結成。2年間の歳月を経て、平成17年11月に発刊されました。

時代と社会の風習に耐え、家族を守り、子どもを育ててきた「ナマ」の声を1冊の本にまとめたものです。この本は、市内図書館に蔵書されていますので、ぜひ皆さんも手に取って読んでください。

もし男子中学生が広報の「担当者」になったら

サッカー部主将



Nishiuchi Yu

夢は考え中です

西内 悠くん

野市中学校3年
部活:サッカー
趣味:サッカー
好きな食べ物:たこ焼き
広報でよく見るコーナー:スポーツ

生徒会長



Nakajima Atsushi

夢は大学教授!

中島篤史くん

野市中学校3年
部活:バスケット
趣味:釣り
好きな食べ物:プリン
広報でよく見るコーナー:コニーヤン

7月5日から7日まで野市中学生が総務課秘書広報係で職場体験を行いました。「広報こうなん」の担当者として9ページの『市役所あれや・これや』下段と、26ページの『夢を叶えるものづくり』を作成しました。ここでは2人の職場体験での感想などを紹介します。

カメラに興味を持ちました。

僕が、この職場を選んだ理由は、広報では、どんな仕事があってどんなことをしているのかに興味があったからです。

この職場体験で、一番面白かったことは、カメラで撮影をすることです。最初は、沖縄から来た派遣職員の宮里さんをインタビューしたときに、撮影しました。今回使ったカメラは一眼レフカメラで、普通のカメラより大きくて重かったです。

それと、撮影をする時、その人のいい表情を撮らないといけなかったで、とても難しかったです。面白かったです。

今回の職場体験で広報の仕事をしてみて、いろいろなことが初めてでとても勉強になりました。この経験を学校でも活かしたいと思いました。

パソコン作業は楽しいけど、インタビューを記事にするのは大変!

今回僕は、父が以前広報の担当者だったときに「広報は面白いよ」と言っていたのを思い出して、どんなところが面白いのか気になってここに来ました。

実際3日間仕事をしてみて、一番面白かったことは、パソコンでの作業です。最初は、操作に手間取りましたが、2日目からは、ショートカットキーを覚えることで、楽しく作業ができました。他にも、カメラの使い方や記事の書き方を習いました。記事を書くのは難しかったです。文字数が制限されている中で、分かりやすく伝えるというのは、大変だと思いました。また、記事の最後に、インタビューした人の決意を書くとうまく文章が締まるということを教えてもらいました。

今回の経験で、タウン誌を作る仕事もいかなと思いました。



▲広報編集委員さんと来月号の広報の構成を打ち合わせ



▲八重瀬町からの派遣職員宮里さんにインタビュー



▲パソコンを使って広報を作成



▲企業の新製品を取材

女性たちの祈り